トラック1

SE:ドアノック

[正面　遠距離]

もう起きていますわ。

部屋に入ってきてくださってよろしくってよ。

SE:ドア開閉

[正面　中距離]

あなたが…今日からわたくしの世話係になった方でして？

ええ、お父様から話は伺ってましてよ。

前の爺は引退なさったのでしょう？

ずいぶんと歳だったもの…仕方がないわ。

それにしても…

[正面　近距離]

前の爺と比べると、ずいぶんとお元気じゃなくって？

お父様が言うには、あなたも年配だと…

違ったかしら。

[正面　中距離]

まぁ確かに、容姿は人それぞれだものね。

お父様もああおっしゃっていたことだし…これからよろしく頼むわね。

早速だけれど、爺。お着替えの用意はあるかしら。

ええ、それでよろしくってよ。

それから…袴のお着付けはできまして？

そう、できないのなら構わなくってよ。

なら…脱いだ寝間着を片付けておいて頂けるかしら。

SE:衣擦れ

なにかしら。

はしたない…とはどういうことでして？

まぁ、わたくしが自分の寝室で着替えるのはいけないというのですの？

爺の前で肌をさらけ出すのははしたない…？

前の爺はそんなことは言わなかったわ。

乳バンドにシュミーズだって、用意するのは爺の仕事ではなくって？

どういうことなのか、教えていただけますこと？

むやみやたらに肌をさらさないのが淑女…

それはお相手が世間の殿方の場合のお話ではなくって？

わたくしが気を揉むことが無いよう、お父様は爺のような年配の世話係を手配してくださるのでしょう？

爺ほど歳の差が開いていれば、気になることはなくってよ。

SE：衣擦れ

ねえ、爺…

そんなにわたくしの肌を見るのが気に障るのでして？

お仕事に手が付かないのは困るわ…

それとも…

その歳になるまで、女性経験が無いとでも言うのかしら。

…少し、こちらに来て下さる？

［正面　近距離］

まぁ、爺…あなた、お顔がずいぶん真っ赤になっているわ。

やはり、わたくしの体を見るのは気が引けるのでして？

お願い、隠し事はしちゃあ嫌よ。

爺はわたくしの世話係でしてよ？

そんなお仕事、信用できる方にしか任せられなくってよ。

ねぇ、爺…素直に答えて頂戴。

あなたは…歳相応に経験を積んでらっしゃるのでしょう？

なら…貴方が私の世話係に相応しいか、わたくしが確かめるわ。

よろしくって？

顔は隠さず、素直に答えて下さればよろしくってよ。

トラック2

[正面　中距離]

さっそくなのだけれど、爺。

服を脱いでくださるかしら。

わたくしはもう脱いでいるのだから…ほら、早くして頂戴。

SE:衣擦れ

(驚いたように)

まぁ…なんなのかしら、この体は…

あなた、老人だったのではなくって…?

信じられないわ…

老人にしちゃあ随分とがっしりした体ですこと…

筋肉も、肌の張りも、老人とは思えなくってよ…

[正面　近距離]

動かないでくださるかしら。

じっとしていて頂戴。

わたくしが触れても、まったく動かないこの体…

前の爺みたいなシワもないし、あなたが老人だなんて信じられないわ…

[右側　近距離]

あら、爺…ねぇ、これは何かしら。

あなたの股間が…下着を押し上げて、膨らんでいるようだわ。

わたくしも…その、多少の知識は身に着けているもの。

これがどういうことなのかはわかるわ…

でも…おかしいのではなくって？

歳をとれば、そういうことは無くなると本で読んだのだけれど…

爺が本当に歳を取っているのなら、こうなるのはおかしな話でしてよ。

あなたは…本当にお父様や爺が言っていたような、老人なのかしら…？

[右側　耳元密着]

…そう。爺は、わたくしの勘違いだと、そう言うのね？

…なら、少し…試してみてもいいこと？

爺が本当に老人なのなら…困ったことにはならないはずだわ。

例えば…わたくしと多少肌が触れても、何とも思わないわよね。

110 爺、こちらにきてベッドに腰かけてくださる？

111

112 SE:衣擦れ

113

114 ［右側　耳元密着］

115 すこしばかり大胆だけれど…爺は動いてはダメよ。

116 わたくしと触れるくらいでは何とも思わないのなら…簡単なことのはずでしてよ。

117 ええ、わたくしが良いと言うまで…そのままの姿勢で居て頂戴。

118

119 （耳元　有声囁き）

120 ほら、こんなに近くで触れあっているわ…

121 わたくしも、殿方とこんなに近付くのは初めてでしてよ…

122 爺が相手なのに…わたくしの方が緊張してしまうわ。

123 （囁きここまで）

124

125 ［右側　近距離］

126 爺、あなた、肩が震えているのではなくって？

127 わたくしが耳元で話すのは、そんなに嫌だったかしら。

128

129 …そう。吐息が耳にかかるのがくすぐったいのね。

確かに…それは、年齢は関係ないものね。

[右側　耳元密着]

でも、わたくしは動くなと言ったはずでしてよ？

爺はわたくしの世話係なんですもの…

少しのことでは動じない、頼れる方だと証明して頂戴。

たとえ、わたくしがこうして…

（右耳にキス）

爺にイタズラをしても、まるで応えない所を見せてほしいのよ。

（耳元　有声囁き）

ねぇ、爺…あなたの反応を見ていて、少しずつわかってきたのだけれど…

あなた、耳が人並み以上に敏感なのではなくって？

もともと、人間の耳は敏感な部分なのは承知しているけれど…

いくらなんでも、吐息が当たるだけで我慢ができないなんて…

ねぇ、そうなのでしょう？

なにも、敏感なのは隠すようなことではなくってよ。

むしろ、そういうことはもっと教えていただけるかしら。

敏感なのは爺だけなのか、はたまた殿方はみなそうなのか…

もっと沢山のことを知りたいのよ。

教えてもらえないのなら…自分で試してみるしか無くってよ。

（右側　耳舐め　30秒）

（耳舐めしながら）

吐息だけであれだけ反応していたのですもの…

直接舐めるのは、もっと刺激が強いのではなくって？

…そうでしょう？

でも、年相応に経験を積んできているのなら…

多少の刺激くらい、耐えるのは容易なはずでしてよ。

（右側　耳舐め　30秒）

（耳舐めしながら）

それにしても…耳を舐めるなんて、初めての経験ですの。

こうして耳をまじまじと見ると…不思議な形をしているのね。

（右側　耳舐め　６０秒）

少しばかり夢中になりすぎてしまったわ。

ごめん遊ばせ。

（少し楽しそう）

ふふ、爺ったら、必死な顔で目をつぶって震えているんですもの。

意外と根性があるのね。

［右側　近距離］

あら、まだ動いてよろしいなんて言ってなくってよ。

だって、結局爺は動いてしまっていたじゃない？

あなたが少しのことでは動じないということが証明できるまで、続けるつもりでしてよ。

［左側　近距離］

ただ…このまま続けるといっても、右側のお耳はもう刺激に慣れてしまったのではなくて？

それでは意味がないもの。

次はこちら側…左のお耳にするわ。

191 ［左側　耳元密着］

192 相応に経験を積んで忍耐力を身に着け…

193 歳を重ね、多少のことで興奮することもない爺ならば、耐えられるはずでしてよ。

194

195 （左耳　耳舐め　30秒）

196

197 （耳舐めしながら）

198 どう、かしら…

199 右側と比べて、差はあるかしら…

200 それとも、あまり関係は無いのかしら。

201 さっきと同じように…拳を握って、目をつぶって我慢していて頂戴。

202

203 （左耳　耳舐め　30秒）

204

205 （耳舐めしながら）

206 なんだか…息が荒くなっているのではなくって？

207 体を抑えようとして力が入ってしまったのかしら。

208 耳も…どんどん、赤くなってきているわ。

209

210 （左耳　耳舐め　60秒）

（耳舐め終わり）

ねぇ…もう、我慢するのは諦めてしまったんですの？

もう、誤魔化さなくてよろしくってよ。

いくら世間知らずなわたくしでも、あなたが前の爺のように歳をとっていないのには気が付いたわ。

［正面　近距離　囁き無し］

お父様は、あなたの本当の年齢を知っているのかしら。

…そう。お父様も、何かお考えがあるのでしょう。

爺も何か言われたんでなくって？

ただ…今日のことは、わたくしたち二人だけの秘密にしましょう。

お父様に知られたら、あなたもタダではすまされなくってよ。

わかっているでしょう？

わたくしも告げ口をするような真似はしないわ…

そのかわり、今後はわたくしの言うことは絶対、よ。

よろしくて？

爺が私の世話係である以上、当たり前のことではあるのだけれど。

約束、よ。

トラック3

SE:ドア越しにブーツの硬い足音が近づいてきて、止まる

［正面　遠距離　ドア越し］

爺、いらっしゃるかしら。

入ってもよろしいこと？

SE:ドア開閉。ブーツの足音が数歩。

［正面　中距離］

気を遣うことは無くってよ。

座ったままで構わないから…少し、話し相手になって頂戴？

わたくしは…爺のベッドを借りようかしら。

SE:ベッドが軋む

わたくしね、そう遠くないうちにお嫁に行くのよ。

あなたも、お父様からお聞きになったのではなくって？

でもね、わたくし…殿方について、何も知らないのよ。

お相手のことじゃないわ。

殿方の…体について、よ。

わたくしだって、本を読んだりして勉強しているわ。

でも、経験の伴わないことはにはどうしても理解ができなくて…

今ですら、あそこがあんなに大きくなるなんて信じられなくってよ。

だからね、爺。

わたくしに殿方の体のことを教えてくださるかしら。

爺以外に、頼れる殿方なんていないし…

えぇ、ありがとう。

そうね…小説に出てきた、快感や…感度?のことをもっと知りたいわ。

表現はどれも抽象的で…

ふむ…感度を、高める…?というのが必要なのね。

それはわたくしにもできることなんでして?

もっと具体的に方法を教えてくださる?

股間を、触る…意外と簡単なのね？

それなら今すぐにでも…

何故止めるんでして？

これは必要なことなのでしょう？

それに、爺に見ていてもらわないと、正しくできているかもわからなくってよ。

SE:ゴソゴソという衣擦れ

んっ…こう、かしら。

触れている感覚はあるけれど、よくわからなくってよ。

下着を履いているし、布越しなのがいけないのかしら…

スローズを脱いでしまうわ。

少し待って頂戴。

SE:衣擦れ

もう、いちいち止めないでくださる？

必要なことならば、恥ずかしくなんてなくってよ。

爺も、しっかり見ていて頂戴？

291

292 んっ…しょ…

293 今度は、直接触ってみるわ…

294 んん…ん…

295 確かに先ほどよりはわかりやすいけれど…

296 ふっ…んん～…

297 これは、敏感になっているのかしら…？

298 普段からじっくりと触ることなんてないし…

299

300 んっ…んん…？

301 ふ～…う～ん…

302

303 ねぇ、爺。

304 よそ見をしないで、こちらをしっかりと見ていてくださるかしら。

305 見えにくいんでしたら、近寄っても構わなくってよ。

306 ほら…

307 やりかたは、これで本当に間違い無いんでして？

308 快感なんて、これっぽっちも感じないのだけれど…

309 他にやり方があったりしないのかしら？

310

311 …指を、入れる…？

312 それは、その…膣に、ということ…？

313 そ、そんなっ……！

314 そもそも、指なんて入るものなんでして！？

315 こんな狭いところ…到底信じられなくってよ…？

316

317 （驚愕したように）

318 本来は…男性器を、ここに…？

319 ど、どういうこと！？

320

321 男性器ってその、爺にもついていたアレ…よね？

322 わたくしの記憶が正しければ、下着の上から見ても…かなり大きかったと思うの

323 だけれど…？

324 それを、ここに挿入するというの！？

325 信じられないわ…

326 本当なんでして…？

327

328 …ふん…そのために、感度を高める必要がある…のね…

329 でも、指を入れるなんてやっぱり恐ろしいわ…

330

331 爺、こちらに来てくださる？

332 いいから、近寄って頂戴。

333

334 ［正面　近距離］

335 わたくしの代わりに、爺がやってくれないかしら。

336 指を入れるなんて初めてだし…

337 自分からもよく見えなくて、なんだか怖いわ。

338 わたくしは腰かけて、脚を開いているから…

339 んっ…はしたない格好だけれど…

340 あなたを信頼しているから…お願いするわ…

341 ほら、早く…

342

343 SE：軽い水音一瞬

344

345 ［正面上より　近距離］

346 ひぅっ！？ふっ…んっ…

347 な、なんなのっ…今のはっ…！

348

349 SE：水音　以降継続

350

351 ひゃうっ…んんっ…
352 自分で触れるのとはまったく違う…
353 こんな感覚初めてでしてよっ…んっ…
354
355 んっ…んんっ…
356 爺に触られているとっ…くっ…ふっ…
357 体が熱くっ…！
358
359 んっ…あっ…んんっ…！
360 ふっ…くっ…ふぅ…
361
362 どうしてっ…そんな湿っているのっ…
363 こ、これがわたくしの中からっ…？
364
365 んっ…こんなこと初めてなのだけれどっ…！
366
367 んんっ…あんっ…
368
369 感じている…証拠…？
370 ふっ…ん…

371　そ、そうなのね…

372

373　あっ…んっ…

374　わたくしの体のことなのに、こんなの知らなかったわっ…

375　ふっ…んんっ…

376　平気よっ…あっ…続けて頂戴っ…！

377

378　んっ…あんっ…！

379　あっ…くっ…あぁっ…！

380

381　もう少しっ…ゆっくりお願いできるかしらっ…！

382　ふっ…んんっ…

383　爺の指が擦れる感覚っ…頭がおかしくなってしまいそうでっ…

384　あんっ…！

385　声がっ…抑えられなくってよっ…！

386

387　（口に手を当てて抑えながら）

388　あっ…はぁっ…んっ♡

389　ひぅっ…！　あっ…んっ…！

390　ああっ…くっ…ふっ…んんっ…！

391

392 だめっ…大きな声がっ…んんっ…！

393 出てしまうのっ…！あっ…はぁっ…♡

394 んんっ…！

395 はっ…はぁっ…あっ♡　んぅっ…くっ…

396

397 爺っ…一度っ…とめてぇっ…くださるっ…？

398

399 あっ♡んっ…んんっ…！

400 はぁっ…！だめっ…そんなっ…

401 んん～っ…はっ…ふぅっ…！

402

403 爺！　一旦とめて頂戴！

404 これ以上されるとっ…おかしくなってしまいそうなのっ…！

405

406 SE：水音終わり

407

408 ［正面　近距離］

409 はぁ…はぁ…

410 わ、わたくしったら…あんなはしたない声を…

で、でも爺のおかげで、感度のあげ方はわかったわ…

それに…快感というものがどういう感覚なのか、よくわかりましてよ…

（かるい咳ばらいをして取り繕う）

はぁ…んんっ。

それよりも、爺。

汗をかいてしまったから、お風呂の用意をお願いしてもよろしくって？

それから…

今日、わたくしが爺の部屋に来たことも、くれぐれも内密に…ね？

421 トラック4

422

423 SE:ドアノック数回

424

425 [正面　遠距離　ドア越し]

426 爺、いらっしゃるかしら。

427 急ぎの用事なの。ごめんあそばせ。

428

429 SE:ドア開閉。ブーツの足音数歩

430

431 [正面　中距離]

432 急に押しかけてごめんなさいね…相談したいことがあったのよ。

433 その、少し言いにくいのだけれど…

434 爺に感度のあげ方を教わった時から、わたくしの秘部が濡れっぱなしなのよ…

435 殿方を見かけたりなんかすると、その方の体を想像してしまって…

436 触れてもいないのにこうなってしまうから、わたくしも困っていたのだけれど…

437 これを我慢してこそ、淑女なんでして？

438 ねぇ、爺。解決する方法はないのかしら…

439

440 満足、していない…わたくしが？

441 えぇと…その「満足」というのがよくわからないのだけれど。
442 教えてもらった方法では不十分だったということなのかしら。
443
444 ふぅん…もっと続ける必要があるのね？
445 そう…でしたら、またお手伝いを、お願いできるかしら…
446 自分でもしてみたけれど、爺にしてもらった時が一番気持よかったんですもの。
447 いま、すぐに用意するから…
448
449 SE：衣擦れ
450
451 淑女たるもの、自分でできないといけないのはわかっているのだけれど…
452 他に頼れる方もいないし、爺にばかり面倒をかけるのは申し訳ないと思っている
453 んでしてよ？
454 でも、どうしてもあの時のことが忘れられなくて…
455 また同じように腰かけているから…
456
457 SE：ベッドが軋む
458
459 ［正面上側　近距離］
460 爺？なぜかがんでいるの？

前と同じようにするのではなくって？

…く、口で？

そ、それはさすがにはしたないのではなくって……！？

本当に正しい方法なの？

わたくしが読んだ本にも、そんなことは書いていなかったと思うのだけれど…

それに、一応、清潔にはしているつもりだけれど、口をつけるだなんてそんな…

（深呼吸）

ふ～…わ、わかったわ。

わたくしはあなたのことを信じていましてよ。

でも、こうもお顔が近いと恥ずかしいわ…

そっ、そこでお話しするのはやめてくださいますこと！？

吐息が当たってっ…んっ…くすぐったいわ…

SE:水音　以降継続

んんっ…ふっ…くっ…

なんなのぉっ…これぇっ…！

481 恥ずかしくってっ…顔から火を噴いてしまいそうでしてよっ……！

482

483 ふぁっ…んんっ……！あぁっ♡

484 だめっ…足を広げて抑えないでくださるかしらっ…

485 あっ…あんっ……！

486 わたくしにもっ…羞恥心というものがありましてよっ……！

487

488 （声を抑えようとする感じで）

489 んっ…あんっ……！

490 あっ…くっ…あぁっ……！

491

492 ひぅっ……！　あっ…んっ……！

493 ああっ…くっ…ふっ…んんっ……！

494 大丈夫っ…ちゃんと快感は覚えていましてよっ……！

495 だからっ…あんっ…あっ♡

496 あまりっ…激しくなさらないでっ……！

497

498 あっ…んんっ……！

499 くっ…ふっ…あぁっ♡

500 指とは比べ物にならないくらいっ……！

501　あっ♡　爺の舌がっ…気持よくてっ……！

502

503　（大きな声が出てしまう）

504　あぁんっ！

505　な、なんですのっ…今のはっ……！？

506　一瞬頭の中が真っ白になってっ…

507　思わずっ…大きな声が出てしまいましてよっ…

508　んっ…今までと明らかに違うっ…

509

510　ああっ…くっ…ふっ…んんっ……！

511　んんっ……！あんっ♡　んっ…あっ♡

512

513　はっ…く、くりとりす…？

514　わたくしの体の中で…一番敏感なところ…

515　あっ…あんっ♡

516　っ…ふっ…あぁっ…♡

517　んっ…あんっ……！

518

519　そこっ……！

520　はしたない声っ…我慢できなくなってしまいましてよっ……！

521

522 （声を我慢できなくなる）

523 あっ…あんっ♡んんっ…！

524 だめよ、爺っ…！

525 クリトリスばかり執拗に攻めるのはぁっ…！

526 やめてっ…あっ♡　頂戴っ…！

527

528 んんっ…！あんっ♡

529 ふっ…くっ…んんっ…！

530

531 そんなっ…広げちゃっ…！

532 ひうっ…あんっ♡んっ…あっ　あっ♡

533 さすがにそこはっ…！

534 あっ♡　あんっ…んっ♡

535

536 吐息が当たるだけでっ…あぁんっ…！

537 体がっ…んんっ…♡　跳ねてしまってぇっ…！

538

539 ふぅっ…くっ…あんっ♡

540 頭がっ…！おかしくなってしまいそうでしてよっ…！

541 あっ♡　んんっ…あっ♡　あんっ♡

542

543 もうっ…吐息が当たるだけでもっ……！

544 んっ…ふっ…あぁっ…♡

545 んっ…あんっ…！

546 あっ…くっ…あぁっ…！

547

548 ひぅっ……！　あっ…んっ…！

549 ああっ…くっ…ふっ…んんっ…！

550 だめっ…本当にっ…！おかしくなってしまいそうでっ……！

551 あっ　あっ♡　あぁっ…！

552 いやっ…だめっ…そんなっ…！

553 あっ…♡　あぁっ…！

554

555 （絶頂）

556 んんっ！　～～～っ！！

557

558 SE：水音終わり

559

560 ［正面　近距離］

561 はぁっ…はぁっ…

562 い、今のはっ…はぁ…はぁ…今のが…絶頂…？

563 知識はあるけれど…

564 はぁ…はぁ…んっ…今のが絶頂…なんですのね…

565

566 たしかに、爺が言っていたような満足感…というのかしら…？

567 なんだか満たされたような感覚はしましてよ…

568

569 ええ、もう大丈夫…

570 ただ、その…またどうしようもなくなったら、爺を頼ってもよろしくて…？

571 なんとか自分でも抑える方法を探してみるけれど…

572 それでも難しいようなら、また相談させて頂きたくってよ。

573

シーン5

SE:ドアノック数回

[正面 遠距離 ドア越し]

開いていますわ。

入ってもよろしくってよ。

SE:ドア開閉

SE:柱時計の針の音 10秒くらいでフェードアウト

[正面 中距離]

あら、もうそんな時間だったかしら。

少しばかり、読書に集中しすぎてしまったようでしてよ。

そうね、明日に備えてそろそろ…

(ふと思いついたように)

ねえ、爺。明日は休日よね?

やっぱりもう少し夜更しするわ。

ほら、腰かけてくださる?

SE:椅子がきしむ

わたくし、また爺に聞いてみたいことがあったのよ。

殿方や、わたくしの体のこと…それに、快感のことについてはよくわかったわ。

でも、本来は男女が子を為すためにすることでなのでしょう？

その、具体的な仕組みが、よくわからなくってよ。

よければ、教えてくださるかしら。

…射精？

えぇ、射精についてはご本で読んだことがありましてよ。

なるほど…男女が交わり、共に絶頂を迎える…

ということは、その男女の交わりでは、快感をおぼえられる。ということなのね？

そうね…爺。それをわたくしとしてくださるかしら。

興味がわいてきましてよ。

いけない？何故なの？

淑女の…貞操…？

本来は、結婚した旦那様としかしてはいけない…？

614

615 でも、気になるんですもの。

616 また今回も、わたくしたちが黙っていれば誰も咎める人なんていんではなくって？

617

618 きっと大丈夫よ…

619 ほら、早く服を脱いでくださるかしら…

620

621 SE:衣擦れ

622

623 まあ…相変わらず逞しいのね…

624 思わず見とれてしまいそうでしてよ…

625

626 んっ…あなたの体を見ていると…

627 何故だかわたくしのお腹の奥の方が切ないような…寂しいような、不思議な気持

628 ちになってしまって…

629 そ、そうね。

630 わたくしも、袴をはだけてしまうわ…

631

632 SE:衣擦れ

633

634 わたくしのここも、もうこんなに湿ってしまって…

635 爺の陰茎も、大きくなっているわね…
636 も、もう始めてくださるかしら。
637
638 SE:軽い水音一瞬
639
640 [正面　近距離]
641 んんっ…爺の体っ…火傷してしまいそうなほど熱い…
642
643 SE:挿入されていく水音継続
644
645 ふっ…くぅっ…
646 わたくしの中をっ…んっ…押し広げながらっ…
647 はぁっ…んぁっ…
648 あっ…んんっ♡
649
650 えぇっ…痛くはなくってよっ…！
651 少し苦しいけれどっ…はっ…
652 あっ…んぁっ…あぁっ…♡
653
654 SE:挿入されていく水音ここまで

655

656 ［左側　耳元密着］

657 す、すごい…本当にわたくしの中にはいってしまったんですのね…

658 はぁ…ふふ、思わず抱きついてしまいましょ。

659 力が入ってしまって…

660 このままでもいいかしら…？

661 えぇ、どうもありがとう…

662 そ、それで…これで終わり…なんですの？

663

664 そ、そう…ここから出し入れするんですのね…

665 先ほどの快感が、何度も…

666 だ、大丈夫…もっと気持が良くなるのでしょう？

667 しっかりと絶頂できるまで、お願いするわ…

668

669 SE：水音ピストン　BPM60くらい　継続

670

671 あっ…んっ♡　ふっ…んんっ…あっ♡

672 えぇっ…確かにこれはぁっ…気持ちいいですわねっ…

673 んんっ…はぁっ…

674 今まででいちばんっ…！

675　あんっ♡　んっ…はぁっ…あっ…んっ♡

676　ふっ…あん♡　んっ　んっ…！

677

678　ああっ…くっ…ふっ…んんっ…！

679　んっ…ふっ…あぁっ…♡

680　んっ…あんっ…！

681　あっ…くっ…あぁっ…！

682　わたくしの中っ…全部気持よくってっ…！

683

684　あんっ…あっ♡

685　一番奥まで突かれるとっ…んっ…

686　まるで初めてっ…絶頂を味わった時のような感覚がっ…あっ♡

687　んっ…ふっ…あんっ♡

688

689　（耳元　有声囁き）

690　お願いっ…あなたもっ…あんっ♡

691　わたくしのことをっ…抱きしめていてくださるかしらっ…んっ♡

692　（囁きここまで）

693

694　あんっ♡　んっ…ふっ…あん♡

695 はぁっ…あっ…んっ♡ んっ んっ……！

696

697 こんな快感を知ってしまったらっ…

698 んっ…あっ♡ ふっ…

699 あなた無しではっ…はぁっ…生きていけなくなってしまいそうでしてよっ……！

700

701 あんっ♡ んんっ…あっ…♡

702 あっ♡ んんっ……！ はっ…

703

704 SE：水音ピストン BPM80 継続

705

706 あぁっ…あんっ♡ あっ…んんっ♡

707 そ、そんなっ…

708 あっ♡ んっ…さらに激しくするなんてっ……！

709

710 あっ♡ あんっ♡ んんっ…あっ♡

711 はぁっ…んっ…あんっ♡

712

713 ねぇっ…爺っ……！

714 あっ♡ あなたもっ…気持ちいいのかしらっ…♡

715 ふぅっ…んんっ…

716 そうっ…でしたのねっ…

717 あっ♡ ふふっ…なんだか嬉しくってよっ……！

718

719 あんっ♡ だって今まではっ…

720 わたくしが一方的にっ…んっ…気持よくしてもらうばかりでしたものっ……！

721 あっ♡ んんっ…ふっ…

722

723 あんっ！ あっ あっ あっ♡

724 どうしてそんなっ…奥の方ばかりっ……！

725 はぁっ…頭がおかしくなってしまいそうでしてよっ……！

726

727 ああっ…くっ…ふっ…んんっ……！

728 わたくしのっ…弱点っ……！

729 んっ…あんっ……！

730 そうなんですのねっ……！

731

732 んっ…ふっ…あぁっ…♡あっ…くっ…あぁっ……！

733 感じたことのない快感がっ…あっ♡

734 押し寄せてくるようでっ……！

735

736 あっ♡ あんっ♡ んんっ…あっ♡

737 あっ♡ んんっ……！ はっ…はぁっ…んっ…あんっ♡

738

739 わたくしばかりではなくってっ……！

740 あっ♡ んんっ…あなたも気持よくなれるようにっ…

741 好きなように動いてっ…あんっ よろしいんですからねっ…んっ♡

742

743 はぁっ…だってっ…んっ…♡

744 お互いに絶頂しなくてはっ…意味がないのでしょう？

745 あっ♡ んんっ……！ はぁっ…

746

747 SE：水音ピストン BPM110 継続

748

749 あっ♡ あっ♡ あっ♡

750 さらに速くっ…なるんですのっ…？

751 んんっ♡ あんっ♡

752

753 こんなのっ…あっ♡ おかしくなってしまっ あっ♡

754

755 あっ♡ あんっ♡ んんっ んっ♡

756 ひぅっ…！ あんっ♡ あっ♡ 激しっ…んんっ！

757

758 はぁっ…んっ あんっ♡ あっ♡ あぁっ…！

759 だめっ…もうっ…！

760 あんっ あぁっ…んっ♡ あっ♡

761

762 お願いっ…あっ♡

763 あなたが絶頂しているところっ…あんっ♡

764 わたくしに見せて頂戴っ…1

765

766 あっ♡ あぁっ…！ あんっ♡ んんっ♡

767 あっ♡ あんっ♡ んんっ…あっ♡

768 わたくしの中でっ…んっ…

769 あっ♡ あっ♡ あっ♡ 射精っ…してっ…！

770

771 （絶頂）

772 んんっ～～～！

773

774 SE：射精音 ピストン停止

775

776 [正面　近距離]

777 はぁっ…はぁっ…はぁっ…

778 これがっ…射精…

779 こんなにも沢山…出されるものだったなんて…

780 お腹が破裂してしまいそうなほど苦しいのに…

781 んっ…ふふ、何故だか、とっても幸せに感じましてよ。

782

783 そ、そう…抜いてしまうんですのね…

784 んんっ…くっ…あんっ♡

785

786 SE:ずるっと抜けるような水音

787

788 抜ける瞬間までわたくしの中を擦っていく…

789 なんて凶悪な形なのかしら…

790

791 SE:時計の針の音フェードイン

792 SE:数秒後　時計の鐘の音2回

793

794 気が付けばこんなに時間がたって…

わたくしは疲れてしまったから…もう眠ることにするわ。

爺も…明日に備えておやすみになって？

それじゃあ…おやすみなさい。

SE：時計の針の音フェードアウト

トラック6 ①

SE:ドア越しにブーツの硬い足音が近づいてきて、止まる

[正面 遠距離 ドア越し]

爺?いらっしゃいますわよね。

失礼しますわ。

SE:ドア開閉。ブーツの足音が数歩

[正面 中距離]

少し…あなたの態度について、お話があるのだけれど。

そうお身構えにならないで?

別に、わたくしは怒っているわけではなくってよ。

[正面 近距離]

爺、あなた…わたくしのことをわざと避けていらっしゃるんではなくって?

普段のお仕事も、随分とよそよそしくなってしまって…

[正面 中距離]

821 はぁ…確かに、理由の見当はついていましてよ。
822 ねぇ、爺…わたくしとまぐわうのが、そんなに嫌だったんでして…？
823 わたくしは…とても気持よかったし、楽しかったのだけれど…
824
825 [右側　近距離]
826 （懇願する感じ）
827 あなたが色々と負い目を感じていらっしゃるのは理解していますの…
828 でも、当のわたくしがお願いしているんですのよ？
829 また、していただけないかしら…
830 ほら、爺が悩むことではなくってよ…
831 お願いよ…服を脱いでくださるかしら…？
832
833 SE：衣擦れ
834
835 [正面　近距離]
836 やっぱりあなたの体…何度見ても逞しくて、飽きることが無くってよ…
837
838 そうですわ、爺。
839 まぐわる際の体勢…色々な形があるというのは本当でして？
840 わたくしは…後背位、というものがきになるわ。

お互いの表情も見えないのに、そんなにいいものなのかしら…

今日は、後背位を試してみたいわ…。

袴を脱いで…後ろ向きに、膝をつけばよろしいんでして…？

SE:衣擦れ

[正面　中距離　バックの距離感]

んっ…爺が見えないのは、なんだか落ち着かなくってよ…

は、早くしてくださるかしら…？

SE:挿入されていく水音数秒

ふっ…んんっ…

前後が変わっただけでもっ…あっ…こんなに感覚が違うんですのねっ…

ひうっ…んっ…

わたくしの中っ…すっかり濡れてしまっているのがわかりまして…？

んっ…あっ♡

わたくしもっ…ずっと体が疼いてしかたがなかったのよっ…

ふっ…挿入されただけじゃっ…我慢できないわっ…！

861 SE：水音ピストン BPM80くらい 継続

862

863 ふあっ…あんっ♡ あっ…♡

864 んっ…思わず声がっ…あっ♡ 漏れてしまってっ…！

865

866 んっ…あっ♡ あんっ♡ んんっ…あっ♡

867 爺もっ…さっきまで躊躇ってっ…らっしゃったのにっ…！

868 はぁっ…あっ…！

869 こんなっ…力強いっ…！

870

871 あぁっ…あんっ♡ あっ…んんっ♡ああっ…くっ…ふっ…んんっ…！

872 んっ…ふっ…あぁっ…♡

873

874 なんだかっ…前よりもはしたない声が出てしまっているようなっ…んっ

875 気がするわっ…あんっ♡

876 んっ…あっ…！

877 なるべくっ…我慢した方がよろしいのかしらっ…？

878 ふっ…抑えようとしてもっ…んんっ…出てしまうのだけれどっ…あっ♡

879

880 そうっ…んっ…構わないんですのねっ…？

あっ♡　安心しましたわっ…んっ♡

あんっ…んんっ…！　我慢するなんてっ…できませんものっ…！

あんっ♡　んんっ…あっ…♡あっ♡　んんっ…！　はっ…

んっ…ふっ…あぁっ…♡

ねぇっ…そういえばっ…んっ…

SE:ピストン一旦停止

はぁ…はぁ…

あなたは、あまり声を出さないんですのね…？

んっ…殿方は、そういうものなんでして？

それとも…何か遠慮しているのかしら。

わたくしの声ばかり聞かれるのは、なんだか恥ずかしくってよ。

…ねぇ、爺。

わたくしの婚約のことを気になさっているのかしら。

それなら…お父様にお話して、婚約の件は無かったことにして頂くわ。

わたくしも、あまり気乗りのするお話ではなかったし…

だって、お相手のお顔も知らないんですのよ？

901 それに…

902

903 [正面　近距離]

904 そうすれば、爺はもっと相手をしてくださるのでしょう？

905 お相手も知らない婚約なんかよりも、この快楽の方が大事ですもの…ね？

906 だから、爺…

907

908 SE：水音ピストン　BPM110　継続

909

910 [正面　中距離　バックの距離感]

911 んっ♡　あんっ♡　んんっ　んっ♡

912 あぁっ…激しっ…んっ…

913 あんっ　あぁっ…んっ♡　あっ♡

914

915 んんっ…でもっ…少しずつ、余裕が出てきましてよっ…

916 段々とっ…快楽を楽しめるようになってっ…あんっ♡

917 はっ…爺の体の感触がっ…一つ一つ、よりはっきりとわかるようにっ…あんっ♡

918

919 あっ♡　あぁっ……！　あんっ♡　んんっ♡

920 あっ♡　んんっ……！　はっ…はぁっ…んっ…あんっ♡

921　ふふっ。あなたの声もっ…んんっ…なかなか素敵でしてよっ……！

922　あっ♡　あんっ♡　んんっ…あっ♡

923　あっ♡　んんっ……！　はっ…はぁっ…んっ…あんっ♡

924

925　爺の声を聞いているとっ…わたくしもっ…あっ♡

926　気持ちが高ぶってっ…はぁっ……！

927

928　はぁっ…んっ　あんっ♡　あっ♡　あぁっ……！

929　あっ♡　あぁっ……！　あんっ♡　んんっ♡

930

931　お願いっ……！

932　またっ…あっ♡　わたくしの中に射精して頂戴っ……！

933　はぁっ…んっ　あんっ♡

934　あの快感がっ…忘れられないのっ……！だからっ……！

935

936　あっ♡　あぁっ……！　あんっ♡　んんっ♡

937　あっ♡　あんっ♡　んんっ…あっ♡

938　一番奥にっ…出してっ……！

939

940　（絶頂）

あぁっ んんっ ～～～っ！

SE：射精音 ピストン停止

ふっ…ふぅ…あぁ…また沢山出してくださったのね…

爺も、わたくしとするのに慣れてきたんでして…？

ふふ、たった二度でこうも変わるんですもの。

もっと回数を重ねて、もっとお互いの体のことを知れば…

（驚く）

は…？これで最後？

まあ、ここまでしておいて、今更そんなことを言い出すなんて…

わたくしはてっきり、婚約よりも爺を選んだのをわかってくれたのかと…。

［正面 近距離］

これ以上は、戻れなくなる…？なるほど。

ふふ…わたくしが好きでもない方と何度もこんな事が出来る女だと思っていましたの？

心外ですわね。

961

962 爺とのことは、真面目に考えていましてよ？

963 最初から…きっと爺だから、この行為も嫌じゃなかったのだわ。

964 わたくしはとっくに、爺の事を一人の殿方として愛おしく思っていたのでしょうね。

965

966 爺だって、私のことを想ってくれて、こんなに気持ちよくしてくれたのではない

967 の？

968

969 ふふ…嬉しいけど恥ずかしいわ…。

970 気持ちを伝えるって、こんなにも恥ずかしいのね…。

971 二人でお父様に話しましょう？しっかりと伝えれば、きっと分かってくださると思

972 うの。

973

974 好きよ…。これからも…わたくしだけ見ていてちょうだいね…

975

976 （キス）

977 ちゅっ。

978

979 トラック6 ②

980 [正面 遠距離 ドア越し]

981 爺?いらっしゃいますわよね。

982 失礼しますわ。

983

984 [正面 中距離]

985 最近私を避けていますわよね?

986

987 お世話係として、それは問題なのではないかしら?

988 まあ、理由は分かっていましてよ。

989

990 今更になって、わたくしとの関係が嫌になったのでしょう…?

991 でも…それを私が許すとでも思っているのかしら?

992

993 今更離れるなんて、許さなくてよ。

994

995 SE:どさっと倒れこむような音

996

997 [正面 近距離]

998 いかがでして? わたくしに見下ろされる心地は?

本来はわたくしが主人なんですもの…こちらが正しい力関係のはずでしてよ。

それにあなたは…年老いた「老人」なのでしょう？

いくらわたくしの体があなたより小さいからと言って…

爺の体に跨ったわたくしを跳ねのける力だって無いはずでしてよ。

だからこのまま、言うことを聞いてくださるかしら。

SE：短い衣擦れ

［左側　近距離］

ねぇ、爺。わたくし、あなたのことが気に入っていますのよ。

あなたに色々と教わるうちに…

あなたともっとまぐわいたいと、そう思うようになったんですの。

ねぇ、爺。わかっていただけるかしら。

貴方が乗り気でないなら…わたくしが自ら動くまで、でしてよ…

それに、いずれは淑女としてわたくしが動くお作法も身につける必要がありますもの。

せっかくですもの、このまま爺に練習のお相手になって頂きますわよ。

1019

1020 SE:挿入されていく水音数秒

1021

1022 [正面　近距離]

1023 んんっ…くっ…あっ♡

1024 そういえばっ…こうしてわたくしが動くのは初めてではなくって？

1025 んっ…しっかり挿入できるのもっ…あんっ♡　爺のおかげでしてよっ…！

1026

1027 ふっ…あぁっ…

1028 この異物感には慣れてしまいましたけれど…

1029 体の中を擦られる感覚には、いつまでたっても慣れられそうにありませんわ…

1030

1031 しかも…んっ♡

1032 わたくしの体重がかかる分、一番奥まで入ってしまってっ…

1033 ふあっ…動いていないのに、絶頂してしまいそうっ…！

1034 ふ～っ…大丈夫っ…このまま動けばっ…よろしいんですわよねっ…♡

1035

1036 SE:水音ピストン　BPM40くらい（ぱちゅんぱちゅんと体重の乗った音）継続

1037

1038 あっ♡んっ…ふっ…あんっ♡　ふぅっ…

いかがっ…でしてっ…？

んっ…わたくしがっ…あっ…動くのはっ…？

あんっ♡　んんっ…ふっ…あっ♡

こうしてっ…爺を見下ろすとっ…あっ♡

なんだか征服感があってっ…んんっ…不思議な気持でしてよっ…

あっ♡　あんっ♡　んんっ…あっ♡

ただっ…んっ♡　今までとは違うところが擦れてっ…！

SE：どさっと倒れこむような音　ピストン一旦停止

［左側　耳元密着］

ふぅっ…ごめんあそばせっ…力が抜けて倒れこんでしまいましてよ…

（耳に吐息が当たる）

ふぅ～…ふぅ～…んっ♡

ねぇ、爺…今は動いていないのに、さらに大きくなったんではなくって？

そういえばあなたは…

1059 （耳元で有声囁き）
1060 お耳が…弱いんだったかしら。
1061 ふふ、恥じるようなことではなくってよ。
1062 あなたが気持ちいいと感じてくださるなら、わたくしだって嬉しいんですもの。
1063
1064 （左耳にキス）
1065 んっ…ちゅ。
1066 どんな反応でも、隠さずに教えて頂戴？
1067
1068 SE：水音ピストン BPM80くらい
1069
1070 ［左側 耳元密着］
1071 （吐息多めの喘ぎ）
1072 ふぅ～…んっ…はぁっ…あっ♡
1073 んっ…はぁ～っ…ふっ…んんっ♡
1074 ねぇ、爺っ…んっ♡
1075 わたくしはっ…はっ…本当に嬉しいんでしてよっ…？
1076 ふ～っ…あなたがっ…わたくしの好奇心に応えてくださるのがっ…あんっ♡
1077
1078 あっ…んっ♡ ふっ…んんっ…！あんっ♡

1079 んっ…ふ～っ… あっ♡ あっ♡
1080 あなたとはっ…んっ♡
1081 これからもこの関係を続けられるかしらっ…あっ♡
1082
1083 んんっ…ふっ…んあっ♡ はっ…
1084 もっと沢山っ…経験を積んでっ…！
1085 んあっ♡ 立派な淑女にっ…ふっ…なりたくってよっ…！
1086 そのためにはっ…あんっ♡ 今後もっ…あなたと沢山っ…♡
1087
1088 んっ…ふっ…あぁっ…♡
1089 そうっ…ふふっ♡ できそうなのね？
1090 あんっ♡ 密かな関係というのもっ…んっ…
1091 悪くは無いような気がしましてよっ…♡
1092
1093 あっ♡ んんっ…！ はっ…はぁっ…んっ…あんっ♡
1094
1095 （耳元で有声囁き）
1096 まるで恋愛小説みたいでっ…んっ…素敵じゃありませんことっ…？
1097 ふっ…どうせっ…お父様の目があるうちはっ…はぁっ…
1098 他にお相手を探すことなんてっ…はっ…到底できませんしっ…あっ♡

1099 （囁きここまで）

1100

1101 ［正面　近距離］

1102 あっ…あんっ♡　あっ♡　ふっ…んんっ…！

1103 あんっ♡　んんっ…あっ♡　んっ♡　あんっ♡　ふっ…んっ♡

1104 あっ♡んっ…ふっ…あんっ♡　ふぅっ…

1105

1106 んっ…ふ～っ…　あっ♡　あっ♡

1107 あっ…んっ♡　ふっ…んんっ…！あんっ♡

1108 あんっ♡　んっ　ふっ…んんっ…！

1109

1110 ふふっ…少し夢中になってしまいましてよっ…♡

1111 わたくしが動くぶんっ…はっ…あんっ♡

1112 自制がっ…聞かなくなってしまってっ…！

1113

1114 あっ♡　あぁっ…！　あんっ♡　んんっ♡

1115 でももうっ…限界が近いみたいでしてよっ…♡

1116

1117 はっ…はぁっ…んっ…あんっ♡

1118 最後はっ…思い切り、腰を落せばよろしくって？

んぁっ…わかりましたわっ…あっ♡

あなたもっ…一番奥にっ…ふっ…沢山出して頂戴っ…！

あっ♡　あぁっ……！　あんっ♡　んんっ♡

あなたの射精をっ…体の中で感じる瞬間がっ本当に好きなのよっ♡

だからお願いっ…出してっ……！

SE:射精音　ピストン停止

はぁっ…はぁっ…はぁっ…

沢山出てる…

はぁ…はぁ…

これは…わたくしが、しっかりと動けていたということでよろしくって…？

ふふ、そう…爺も感じてくださっていたのね…

でも…まだまだ…

立派な淑女になるためには、自己研鑽（じこけんさん）を怠るわけにはいかなくってよ。

何事も経験ということですし。

これからも爺に、お相手をお願いしますわ。

断ってもよろしくってよ？

でも…あくまでも主人はわたくし。

…それは爺もよくわかっているんではなくって？

ふふ、それじゃあ、わたくしが立派な淑女になれるまで、わたくし専属の、世話係をあなたにお任せしますの。

くれぐれも、よろしく頼みましてよ。

トラックEX

［正面　中距離］

ねぇ、爺。少し試してみたいことがあるのだけれど。

服を脱いでくださるかしら。

下だけで構わなくってよ。

SE：衣擦れ

やはりそうでしたのね…

今ままで爺の陰茎を見たときは、ほとんど、勃起…？した状態でしたでしょう？

本来は、こう小さく縮んでいるものなのだと、後から知りましてよ。

爺、こちらを咥えてみてもよろしくって？

女性が殿方の作法であると、本で読みましたの。

淑女として、身につけておくべきでしょう？

あなたはそのまま、立っていて下さればよろしいわ。

［正面下側　近距離］

こうして近くで見てみると…不思議な形でしてよ…

（匂いを嗅ぐ）
スン…香りも…すこし汗の香りがするけれど…
…あむっ

（咥えながら）
んっ…なんだか柔らかくて…
むっ…これがあんなに大きく、硬くなるんですのね…
このまま、顔を動かせばよろしいのよね…

（フェラ　水音少なめ）
んんっ…むぐっ…ふっ…
んっ…んんっ…！

（咥えながら）
凄い…あっという間にこんなに大きく…
んぐっ…もうっ…わたくしのお口には入りきらなくってよ…
（口から出す）

ところでこれ…お口の刺激だけでお射精までできるんでして？
そう、ですのね…

初めてだけれど…頑張ってみるわ。

それじゃあ、もう一度…あむっ

（フェラ　水音少なめ）

んっ…んふっ…むぐっ…

ふっ…んむっ…！

（咥えながら）

確か、もっと舌を使って…

（フェラ　水音普通）

んむっ…れぇっ…じゅるっ…ちゅっ…

じゅぷっ…んっ♡　んぷっ…ちゅぷっ…んんっ…れろっ…♡

（咥えながら）

これ…よだれが垂れてしまって…

なんだかはしたないですわねっ…

（フェラ　水音普通）

んぷっ…じゅぷっ♡　んんっ…ちゅっ…れぇろっ…

じゅるっ…んっ♡　ふっ…ちゅっ…じゅぷっ…

（咥えながら）

爺…んっ…随分と膝が震えていらっしゃるわ。

もう、お射精してしまいそうなのではっ…れぇ…なくって？

なんだかっ…はぁっ…いつもより早いような気がするのだけれど…んんっ…

そう、急に咥えるのはっ…んんっ…刺激が強すぎる…

加減が難しいんですのね…ふっ…もっと練習が必要でしてよっ…ちゅっ…

舌使い…な咥えずに、舐めるのも重要…覚えておくわ。

じゅぷっ♡　んんっ…ちゅっ…

でも、今はもう出してしまいそうなのでしょう？

んっ…えぇ、このままわたくしのお口に出して頂戴っ……！

遠慮なさらないでっ…じゅぷっ…んっ…お口の中にっ…沢山っ……！

じゅるっ♡　じゅぷっ…んっ…じゅぷっ……！だひてっ……！

SE：射精音

んっー！ふっ…んんっ―！

（フェラ ここまで）

はー…はぁ～…ち、窒息してしまうかと思いましてよ。

ん…なんだか変な味…

塩辛いような…苦いような…そうね、特段美味しくはなくってよ。

でもこれで…殿方のお誘いのし方は覚えましたの。

これからは、爺に相手をしてもらいたいときに、もっと積極的にお願いできましてよ。

今までは無理を言って頼み込むだけで芸が無かったですし…

他に誘惑…んんっ…お誘いするための方法を調べてみるわ。

なにか見つけたら、全部あなたで試してみるつもりだから…

楽しみになさっていてちょうだい？

トラックおまけ2

[正面　中距離]

爺…また今日も、お願いできるかしら。

えぇ、いつも通りに…

わたくしだって、我慢しようとはしているんですのよ？

でも、体の火照りは抑えられなくて…

だから、鎮めるのを手伝って頂戴…？

はぁ…まだそんなことを言うんですの？

そうやって断っておきながら、結局最後までしてくれなかったことなんてないじゃない。

[右側　耳元]

それに、ほら…爺ももう、その気になってしまっているのでしょう？

こんなに硬く腫らして…

あなただって辛いでしょう。

ほら、早く下着も下ろして…そこに座って頂戴。

今晩もわたくしが上に跨るわ…

SE:衣擦れとベッドの軽い軋み

[正面　やや上側近距離]

ふふ、やはりあなたを見下ろすのは悪くない眺めでしてよ。

爺の上気したお顔…

もう我慢なんてできませんわ。

早速、挿入するっ…わ…っー

SE:挿入されていく水音数秒

ふっ…んんっ…あぁっ♡

挿入しただけでっ…絶頂してしまいそうっ…ー

はぁ…はぁ…

ごめんなさい、わたくしから誘ったのに力が抜けてしまってっ…

もう少しの間だけ…

SE:水音ピストン　BPM80くらい

1282 あっ♡　んんっ…ちょっとっ…爺っ……！

1283 動いてくださるのは嬉しいけれどっ…

1284

1285 あっ♡　んんっ……！　はっ…はぁっ…

1286 そんなっ…いきなりっ……！

1287

1288 せっかくならっ…もう少しゆっくり楽しんでっ…あぁっ♡

1289 あんっ♡　んんっ…あっ♡　んっ♡　あんっ♡　ふっ…んっ♡

1290 あっ♡んっ…ふっ…あんっ♡

1291

1292 爺の腰使いっ…力強すぎでっ…

1293 あっ…んっ♡　ふっ…んんっ……！あんっ♡

1294 そんなに激しくされるとっ…わたくしも余裕がなくなってしまいましてよっ……！

1295

1296 はっ…はぁっ…んっ…あんっ♡

1297 っ…んっ♡　ふっ…んんっ……！あんっ♡

1298

1299 いやだ、わたくしったらっ…んっ♡　はぁっ……！

1300 あっという間にっ…絶頂してしまいそうっ…♡

1301

あんっ♡　んんっ…あっ♡　んっ♡　あんっ♡　ふっ…んっ♡

んっ…ふ～っ…　あっ♡　あっ♡

そんなっ…わたくしの腰をつかんでっ…

あっ♡あんっ♡

それぇっ…奥まで突かれてっ…

あっ♡　あぁっ…！　あんっ♡　んんっ♡

あっ♡　あんっ♡　んんっ…あっ♡

爺に奥まで突かれるのっ…あっ♡　好きっ…はぁっ…！

声もっ…何もかも我慢できなくなってしまってっ…！

んっ…あぁっ♡　気持があふれてしまうのっ…！

あっ…あんっ♡　あっ♡　ふっ…んんっ…！

あんっ♡　んんっ…あっ♡　んっ♡　あんっ♡　ふっ…んっ♡

ねぇっ…爺っ…！好きっ…好きよっ…！

あなたが好きっ…あなたに抱きしめられるのが好きなのっ…！

あっ♡　あんっ♡　んんっ…

もう我慢なんてっ…無理っ……!

お願いっ……!またこのまま出してっ……!

SE:射精音　ピストン停止

はぁ…はぁ…

ふふ、また凄い量出てるわ…

ねぇ、爺。さっき言ったことは、嘘なんかじゃなくってよ。

わたくし、やはり大事なのはお相手の方だと思うのよ。

だからこそ、爺としていると、こうも乱れてしまうんでしてよ…

だからね、爺。

これからも一生、わたくしを満足させられるように今後も励んでくださいませ?

（少しイタズラっぽく）

ふふ、今日もとっても気持よくて満足したけれど…

少し激しすぎ、だったかもしれなくってよ♡